

## 平成 24 年度 第Ⅲ期実務実習に関わる報告書

### 【北海道地区】

#### 1. 実習実施時のトラブルについて

- ・特に大きなトラブルはありません。
- ・厳冬地区なので公共交通機関の乱れで欠席にはならないが遅刻はあるようです。到着次第、実習を開始し問題なく終了しています。
- ・札幌市内にて認定実務実習指導薬剤師と実習生のフィリングが合わず、後半の実習を同地区内の別の薬局に移動して実習継続して問題なく実習を終了した例がありました。大学側の判断でお互いに問題なしと判断して移動させたとのこと（パワハラまがいの事例）。今後もこの受入施設は継続して実習受入するとのこと。

#### 2. 大学と施設の連携について

- ・厳冬時期なので3回の訪問は大変だが問題なく実施された。今後は実習期間中、2回の訪問でも問題ないという意見多し。中間訪問はメール確認でも可能と思われる。

#### 3. 実習に関する学生の意見

- ・特になし

#### 4. 実習に関する病院側の意見

- ・特になし

#### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・札幌エリアの集合研修は全員参加、代理店・卸見学も募集定員100%の参加で非常に好評であった。今後も継続して欲しいとの意見多い。
- ・実習開始前にチェーン店の過度な学生接待・リクルート活動により実習開始時点で既に内定が出ている（4年生の時点）ケースが多く、学生の実習取組のモチベーションが低い。単位さえ取ればいいという傾向が強くなる。企業メールの問題ではあるが、受入側も他のチェーン店に内定出ている学生が来てもやりづらいとの意見が多い。
- ・実習に関わる経費の考え方が各企業間で様々で、学生によって移動時の交通費等にばらつきがあり今後なるべく統一していきたい。
- ・学生用の机・パソコン等が、まだ受入側で統一準備されていない。

#### 6. Webによる連携状況について

- ・北海道は、3大学が同じシステム利用のため非常にスムーズに運営されており問題はなし。

#### 7. 評価実施について

- ・特になし

## 【東北地区】

### 1. 実習実施時のトラブルについて

- ・学生の無断欠席（薬局実習）。薬局の指導薬剤師から大学に連絡があり判明した事例があった。大学教員の学生に対する指導と薬局の指導薬剤師の励ましの結果、態度が改善され、その後の実習が継続され、終了日まで行われた。
- ・Ⅰ期病院実習終了後、体調を崩し入院、その後自宅療養し、Ⅱ期薬局実習をⅢ期に変更して行った。
- ・Ⅰ期薬局実習終了後、病気発症し入院、Ⅱ期病院実習を、Ⅲ期に施設を変更し病院実習を行った。

### 2. 大学と施設との連携について

- ・電話、訪問、メール等により密に連携して実習を実施した。指導薬剤師が大学側に連絡しやすい雰囲気を作った。
- ・施設担当教員が、実習開始前の打ち合わせおよび中期評価の2回、施設訪問を行い、連携を深めた。

### 3. 実習に関する学生の意見

- ・患者に直接面と向かって対応できる機会を得ることができ、服薬説明などの経験を詰めたことはよかった。
- ・大学での事前学習中に、患者が理解しやすい・分かりやすい言葉の言い回し方のトレーニングができるとよかった。
- ・実習を通じて、指導薬剤師の熱意をととても感じた。
- ・長期間薬剤師業務に関わることができたので、実態を知ることができた。
- ・実習期間は長いと思ったが、体験して時間をかけて学ぶ必要があることがわかった。
- ・実際に患者に服薬指導でき、抗癌剤調製等いろいろな体験ができた。
- ・病院薬剤師の業務が想像以上に多岐にわたっており、貴重な体験ができた。
- ・カリキュラムをこなすために非常に忙しく、深く学ぶことができなかった。
- ・1日で覚える量が多く、流れ作業のように受け身でその日が終わっていった。
- ・指導薬剤師が多忙で自習時間が多かった。
- ・在宅や介護施設への訪問に同行したとき、学ぶことが多かった。
- ・患者との接し方、どんなことが患者の生活の助けになるか知ることができた。
- ・在宅業務を通して地域医療の特色を知ることができた。
- ・他職種の方々との関わりを学ぶことができた。
- ・患者と話す機会が多く、コミュニケーション能力が身についた。
- ・経験できなかったことに対する不安が残った。
- ・実習期間2.5ヶ月は長かった。

#### 4. 実習に関する病院側の意見

- ・もっと積極的に実習に参加してほしい。
- ・学生のレベルが想像以上に低く疲れた。

#### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・無断欠席に関連する意見として、技術的なことは指導できるが、社会人としての常識を教えるのは難しいので、大学内での事前教育を通じてしっかりと教育して欲しい。
- ・学生のレベルが想像以上に低く疲れた。
- ・学生もつらかったと思われます。知識がないためついていけない。
- ・実習に必要な知識の予習・復習をしない。

#### 6. Web による連携状況について

- ・ホームページを介して、継続して情報提供している。

#### 7. 評価実施について

- ・形成的評価表、出席表、学生が実習中に作成したポートフォリオを参考に大学で可否を評価する。

### 【北陸地区】

#### 1. 実習実施時のトラブルについて

- ・学生が、実習施設・大学への連絡をせずに体調不良で受診していた。11 時になって初めて施設に常駐していた大学教員に欠席するとの電話を入れた。当該施設では大学教員が常駐して学生の体調や遅刻・欠席を管理するため、指導薬剤師が実習生を探し回ることはなかったが、学生に対し厳重注意。
- ・日誌を未記入のままにしている学生が 2 名あり、指導薬剤師・大学教員から再三注意を受けていた。4 週分に及び施設側から実習中止の要望あり。大学担当教員、実習責任者と学生が面談を行い厳重注意し、学生本人も改善できるよう努力すること。その後 4 週間のうち徐々に未記入は解消。施設から実習は継続すること。
- ・施設の薬剤部長から大学の実習責任者に電話があり、1 期の実習生のレポートをそのままコピーしている学生がいる、そのような学生は即刻実習中止にしてほしいとの申し入れがあった。3 期の学生の日誌 5 日分が、1 期の学生の日誌と一字一句、改行も感想も全く同じ。施設側は、当該学生と場合によっては提供者の学生も、厳しく対処してほしいと要望。当該学生は当日の実習を中断し大学にて面談。申し入れの翌々日から実習中止。
- ・薬局実習中、実習生が誤って、散剤分包機の一部を破損し、軽微な損害を与えた。使用できないわけではなかったが、修理の上、修理費は学生加入している保険を適用した。

## 2. 大学と施設との連携について

- ・あらかじめ就活等の休みを申請している学生があれば、現場にも前もって伝えてほしい。(病院)
- ・即時対応が取れるようお願いしたい。(病院)
- ・今年度から指導薬剤師の担任学生が決まり、夕方に学生と面談をしたり相談に乗ったりしてくださるようになり、状況が改善されつつあるが、指導薬剤師さんが思っておられることを教員が直接伺う機会は殆どない。教員側と薬剤師側の代表者経由での話となるため、連絡自体に時間がかかることがあり、お互いに正確に理解できているのかが不安な場合がある。(大学)

## 3. 実習に関する学生の意見

- ・40人と言う集団をまとめるのは大変だと思いますが、1人が乱れ始めたら感染していくので、しっかりと指導を行った方がよいと思いました。
- ・アンケートで車を持っていないと答えましたが3期をあてられました。なんとか実習を終えましたが、これだけの人数の実習を行うので大学からバスを出してほしい。
- ・3期の実習は失くすべき
- ・自分は卸見学以外、薬局から出ていない。学校薬剤師も在宅も何もしていない。一方で、発表でみっちり在宅をしているのを聞いてうらやましかった。

## 4. 実習に関する病院側の意見

- ・真面目に実習を受けて課題を行えば、余裕などないと思われる。失礼な言い方になりますが、当院での実習を大学での実習の延長と勘違いしている。必要以上に学生実習に時間を割くことになると、患者への薬学的ケアの質と量が低下しかねないため、積極性の向上を求める。
- ・知り合い同士の学生が多いと、どうしても学生同士で慣れて気持ちが揺らいで身が入らなくなるが多いと思う。セミナー室の中ではその傾向が強い。違う大学の学生も混ぜるべきだ。
- ・成績の良い子と著しく悪い子はペアにしない方が良いのでは？
- ・学生の実習態度やマナーの指導を徹底してほしい。学力、やる気のない子の指導は大変。マナーは最低限守ってほしい。
- ・昨年度に比べて、就活を希望する学生が増えて、やむをえず、補習等をやらなければならないケースがあった。

## 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・薬局実習中、実習生の積極性が低いとの指摘を受けた。実習生は、忙しくしている薬剤師の方に声をかけるのが迷惑になると考えたが、一方で、それが指導薬剤師には消極的に写った。お互いにコミュニケーションをもっと取るようにしていく必要性が改善点として挙げられた。

## 6. Webによる連携状況について

(学生と教員間)

- ・いつもメッセージを送って下さり元気づけられた
- ・連絡事項がわかりやすい
- ・しっかりと日誌を確認して下さり、それに対するフィードバックも行なってもらえた
- ・困ったことをすぐ相談できた
- ・定期的に連絡して下さった

(学生と指導薬剤師間)

- ・コメントはほとんどなかった

## 7. 評価実施について

- ・3段階では評価が難しい。5段階ではどうか。SBOsが重複している項目の評価がしにくい。
- ・薬剤師によって評価が異なっていると思う。
- ・3段階評価では、2に該当する学生が多数を占めるが、1をつけるべき学生が少なからず存在する。大学側からは1をつけないでほしい or ぜひ付けてほしいなど、申し入れが一定しない。現状はそういう学生も2をつけていたが、それでは本当の評価にならないと思う。
- ・どうしても評価に私情が入ってしまい、平等な評価とならない事もある。
- ・1日に評価するのは10人が限度のため、評価する日が違うと評価の基準がずれることがある。
- ・評価に対して標準化ができていない
- ・薬局実習において他施設での評価の基準が異なることによって、評価点にばらつきがでた。今後、過去の評価点(平均点やばらつき)を示すことによって改善していきたい

### 【関東地区】

#### 1. 実習実施時のトラブルについて

##### ① 実習中止

- ・実習開始1週間で実習施設とのコミュニケーションの問題により、中止となった事例が1件あった。
- ・I期病院実習にて体調不良で出席日数が足りなかった学生の補講をⅢ期に実施したが、再度、体調不良により出席日数が不足し実習を断念した。

##### ② 実習施設変更

- ・実習生から、十分な実習指導が行われていないので実習施設を変更して欲しいとの要望があった。施設側からは、実習生が望むのであれば施設を変更してもよい、との事だったので実習施設を変更した。

- ・指導薬剤師のハラスメント（大学側で判断）および実習時間に対する学生と施設の考え方の相違で実習を中断した事例が2件あった。いずれも、施設側・大学側とで話し合った結果、施設を変更して実習を継続した。

### ③ 実習態度不良

- ・実習態度が改善されず、課題の不提出などもあり、実習生の反省文を実習先に提出した。
- ・実習時間外のアアルバイトのために、昼間の実習中に居眠りをする学生がおり、大学、指導薬剤師のいずれからも再三にわたり注意をしたが、多少の改善は見られたものの十分な改善は最後まで認められなかった。

### ④ 就職活動

- ・就職活動の回数が多くて指導薬剤師から問合せがあり、大学教員を含めた話し合いにより、改善された。
- ・企業に就職をしたいと考えていた学生が、休憩中などにスマートフォンでエントリーをチェックしていた。実習中も実習に集中できない様子だったため、指導薬剤師から大学へ対応についての相談があった。実習の出席日数、到達度には問題はなかった。
- ・就職活動に伴う面接が実習期間中に多発し、大学の就職担当（教授・就職委員会委員長および学生課就職担当）が窓口となり面接日程の変更には奔走した。結果的に、実習期間中に発生したすべての事例について面接日程を変更することができたが、そのために膨大な労力を費やした。

### ⑤ その他

- ・インフルエンザによる欠席が多かった。
- ・使用済みインスリン注射針の針刺し事故があった。
- ・実習指導や評価が不適切と思われる施設があった。
- ・女子学生より言葉によるセクシャルハラスメントを受けたとの訴えがあり、学生本人に面接し事実関係を確認した。当該薬剤師による言葉以外のセクハラは無かった模様だが、当該施設管理責任者に、改めてセクハラ防止にむけての周知徹底を依頼した。

## 2. 大学と施設との連携について

- ・実習期間中は原則として3回の訪問を実施して実習先との連携を図った。
- ・訪問回数は原則2回行い、その他、症例検討会等の発表会には出席している。
- ・実習終了後、大学内において行われる成果発表会について実習施設にも案内を送付し、ポスター形式の発表を見学してもらった。
- ・施設担当者や臨床担当者をおき、実習施設との連携を図っている。
- ・昨年度に引き続き、大学近隣（受入学生数の多い地域）の薬剤師会と本学の間で実務実習終了後に懇談会を開催し、良かった、点改善すべき点を出し合った。組織体との連携は年とともに良好になりつつある。

- ・実務家教員と指導薬剤師との単位認定打合せを行い、実習生の成績等に関する情報を交換している。実習生、指導薬剤師、指導担当教員及び実務家教員による、実習報告会を大学において開催するとともに、報告の内容をまとめた要旨集（CD-ROM）を作成している。
- ・実習学生の成績評価の一部に、実習施設薬剤師と教員による共同評価を取り入れている（総合的評価の30%）。このため、実習開始前訪問等において、教員より実習施設薬剤師に対して共同評価（もしくは単独評価）を実習施設と大学との連携の重要なこととして捉えていることを説明し、可能な限り共同での評価を依頼している。

### 3. 実習に関する学生の意見

#### ① 全般的な意見

- ・実習施設間で、実習内容に違いがあるので、できるだけ均一化してほしい。
- ・自分が患者さんに害を及ぼさないか、不安があった。
- ・病院の後に薬局だと物足りないと感じると思う。
- ・薬局で調剤に慣れて商品名を覚えてから病院に行った方が充実できる。

#### ② 病院実習

##### （良かった点）

- ・チーム医療における薬剤師の役割が理解できた。
- ・手術見学や解剖の見学ができた。
- ・病態を把握することの重要性が理解できた。
- ・医薬品の使い方は添付文書どおりではない事が学べた。
- ・検査値の重要性が理解できた。
- ・抗がん剤のミキシング、治験、オペの見学、動物センター見学、人工授精など貴重な経験をする事ができた。

##### （悪かった点）

- ・指導薬剤師の対応が実習生によって違うように感じた。
- ・指導薬剤師によって指導に差があるので実習指導の改善を望む。
- ・実習中の昼休み時間が、十分に確保されていなかった。
- ・ペアで組んだ相手の学生が寝ていたのに本人も怒られたり、また指導薬剤師が課題に対する解答を全く見ない、ということが数回あった。

#### ③ 薬局実習

##### （良かった点）

- ・実習先以外の見学や薬局以外の場所での薬剤師の活動を学ぶ事ができて良かった。
- ・服薬指導の大切さが理解できた。
- ・様々な処方せんの投薬実習が出来た。
- ・服薬指導では、大変有意義な時間を割いて頂いて、指導薬剤師の先生や患者さんに感謝している。
- ・添付文書の読み方などを詳しく教えていただくことで、薬の理解が深まった。

- ・調剤薬局の薬剤師がいかに患者さんの近い存在かということを知ることができた。  
(悪かった点)
- ・実習に対して薬局内で違う見解をしている先生がいて戸惑った。
- ・指導薬剤師の先生に質問すると、「何?」「そんなこともわからないの」と返事があるため、非常に質問しにくかった。
- ・薬局では毎日同じ業務が大半なので、もう少しどんな事を調べたり、考えたりしたら良いか指導がほしかった。  
(その他)
- ・患者さんの情報を把握するためには、カルテがないので患者さんとのコミュニケーションが不可欠と感じた。

#### 4. 実習に関する病院側の意見

##### ① 就職活動

- ・企業に就職希望の実習生が、全体的に欠席が多いと思われる。自覚をもって実習に臨んでほしい。
- ・メーカーを希望する学生に実習態度が不良なケースが多くみられる。
- ・学生の就職活動に対して、実習が優先であることを学生に周知してほしい希望があった。
- ・病院志望でない学生からはやる気が感じられない。
- ・製薬企業への就活をされる方の受入はできれば望まない。

##### ② その他

- ・事前に学生の病気の情報を伝えて欲しい。
- ・1年時早期体験と5年時実務実習の間に3年時当たりのその中間的な実務に関する実習などがあれば、導入がしやすいかもしれない。
- ・日報と週報が同じ内容なので、コメントを書くのが大変である。
- ・もう少し実習に対して、目的意識をはっきりと持って欲しい。
- ・インフルエンザワクチン接種については、実務実習前までに学生に接種するように指導して欲しい。
- ・基礎教育(薬理・生化学等)を復習させて欲しい
- ・実習日誌への記入が遅い、内容が稚拙で日記形式になってしまっている。
- ・薬剤師側も勉強になる。
- ・自分の業務を教える事で、業務の見直しにもつながると思う。
- ・救急領域の実習を追加し、学生から好評を得た。

#### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・欠席日数が問題になることがあるのか不明であった。就職活動等での欠席が多かったが、大学として今後欠席日数の上限を設ける予定があるのか聞きしたい。
- ・態度評価表の書き方が分かりにくい。
- ・明らかにどこかのサイトのコピーと思われるレポートが多々あった。社会人、医療人としてのマナーを身に付けてから実習してほしい。



- ・大学でどんなことを教わっているのかを知ることができた。

## 6. Webによる連携状況について

- ・WEBによる連携体制を実施しているが大きな問題はなかった。
- ・多くの施設でwebによる連携システムを行っており、学生が日々どのような実習を行っているか、把握するのに大変便利である。
- ・25年度第I期実務実習から本格導入する予定で予算措置などをした。
- ・大学教員が実習施設訪問時に学生に対し、適切なアドバイスを行うことができ、指導薬剤師・学生とのメッセージの交換がシステム内で行えるため、緊密な情報交換も行うことができるようになった。
- ・メール機能、形成的・総合評価機能、学生の成長度が視覚的に理解できるサマリーレポート、グラフ表示機能をつけている。

## 7. 評価実施について

- ・実習先の評価をもとに3段階で評価を行った。
- ・従来通り、実習施設側と大学側の評価に加えて、実習終了後に行っている成果報告会のプレゼンテーションを採点し、総括的評価の一部に使用している。25度に現行の評価方法を再点検する予定である。
- ・実習中の評価に関しては調整機構が設定した「3段階」評価を用いている。問題点としては、他大学では独自の「5段階」を採用しているところもあり、二つ以上の大学を受け入れている実習施設にとっては統一をされていないことが施設側を悩ませている。指導薬剤師側からの意見では「3段階」は評価しにくいという意見も聞く。
- ・指導薬剤師より、評価基準がよくわからない、少数ではあるが3段階ではなく、もう少し細かくても良いのではないかと、といった意見があった。
- ・実習施設間において、薬剤師による成績評価の考え方に違いが認められており、評価基準について施設間の差を無くしていく必要性が感じられた。
- ・Webシステムでは5段階評価に設定したが、他大学と同じ3段階評価にして欲しいと施設より要望があった。来年度から3段階評価にすることとした。

## 【東海地区】

### 1. 実習実施時のトラブルについて

- ・第3期は病院実務実習において、実習期間中にメンタルな悩みから体調を崩し、実習終盤で中止になった学生があった。医師や施設と相談の上、実習については来年度に持ち越して体調が戻り次第再開を検討することとなった。
- ・本年度は事前に調査をして割り振りの対応を行ったため、実習中の就職活動についてのトラブルは特に見られなかった。
- ・抗悪性腫瘍剤の無菌調製時、実習生の操作ミスによりキャビネット内に全薬液量をこぼしてしまった。予期せぬ出来事であったため、指導薬剤師は事故を未然に防ぐことができなかった。実習生と指導薬剤師の健康被害を防止する目的で、事故後直ちにキャビネット内の抗悪

性腫瘍剤を院内の取扱手順に従って除染処理した。以上の理由により、証拠となる写真および物品を残すことができなかったが、本件は、大学で加入している学生教育研究災害障害保険の過失割合認定基準に従って処理したところ、学生が破損させた抗悪性腫瘍剤は全額補償された。

- ・第3期になると、お互いの緊張感が不足してきているのではないかとの指摘があった。
- ・大きな問題に発展してはいないが、就職活動関連事項が若干あった。
- ・学生が事前の連絡もせず、当日「就職活動で休む」と連絡をしてきた。
- ・本来であれば内定が出る時期ではないが、学生との間で口約束のような形で内定を出している薬局があった。その薬局管理者との面談に先方の都合で平日を指定されたため、実習を休んで良いかと学生より連絡があった。
- ・企業就職希望者の就活による休みが多い。

## 2. 大学と施設との連携について

- ・実習期間中の平日に就職試験（複数の企業）を受ける予定の学生がいたが、事前に指導薬剤師と相談することで、実務実習に大きな支障をきたすことなく終了できた。
- ・実習開始直前に抑うつ状態を呈した学生がいたが、治療にあたった専門医と教員そして指導薬剤師の3者間で情報を共有し学生をサポートすることで、実務実習に大きな支障をきたすことなく終了できた。3期は実習施設が少なかったこともあり、特に連携にトラブルはなかった。
- ・愛知県4大学が合同で行なった指導薬剤師と大学による実務実習報告会（会場 金城学院）にも教員が参加し、有意義な意見交換がなされ、来年度への参考となった。大学と施設との連携について：
  - ・大学と施設の距離にかかわらず、大学教員の施設訪問によって実習生の実習態度や実習の進捗状況を把握できた。
  - ・電話あるいはWebを利用したメッセージ交換により情報交換ができた。
  - ・訪問や電話及びWebの利用により、円滑な連携を図ることができた。
  - ・大学主催の実習成果報告会の開催の案内を発信し、参加を促した。
  - ・大学教員が施設や地区薬剤師会等の学生実習発表会に参加した。

## 3. 実習に関する学生の意見

- ・薬局の指導薬剤師の方針ということで服薬指導をほとんどさせてもらえなかった。
- ・患者指導などで自分なりの考えを指導薬剤師に伝えても取り上げてもらえず、指導薬剤師の考え方に合わせるよう強要され辛かった。
- ・指導薬剤師が実習生仲間と実習後に食事に誘ってくれ、情報交換でき有意義で楽しかった。
- ・【薬局実習】錠剤のピッキングしかやらせてもらえず、散剤、水剤、一包化、粉碎などの調剤は全くやらせてもらえなかった。服薬指導も3回しかさせてもらえなかった。何のために11週間の実習に行ったのかわからなくなった。
- ・【薬局実習】先生方がロッカールームでタバコをすっていたためコートやかばんなどの持ち物ににおいがつき、不快であった。

- ・【病院実習】独自のカリキュラムがあり、実際の現場に基づいた課題があり良かった。
- ・【病院実習】課題をいちいち他の実習生と比べるのをやめてほしい。
- ・教員訪問時に学生に会わない(会えない)場合は、システムなどで連絡はすべきではないか。

#### 4. 実習に関する病院側の意見

- ・重複内容のボリュームを減らし、施設の特徴を取り入れてほしい。
- ・I期もしくはII期での薬局実習を終えて業務になれていることから、緊張感に欠けており、ましてや就職活動時期でもあり、実習そのものに身が入っていない学生が多い。
- ・もう少しモチベーションを高めるような方法を双方で考える必要がある。

#### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・事前実習の内容について、大学間の差が大きいと感じている。
- ・現場に強い薬剤師を育てたいとの思いから実習生を引き受けている。大学ではどのように考えているか。
- ・実習が問題なく進行している状況では、訪問回数は期間内に1回でもよいのではないか？
- ・I期もしくはII期での病院実習を終えて業務になれていることから、緊張感に欠けており、ましてや就職活動時期でもあり、実習そのものに身が入っていない学生が多い。
- ・もう少しモチベーションを高めるような方法を双方で考える必要がある。
- ・(非難めいた口調ではなかったが)「今の学生さんはすぐ休むね」というコメントあり。学生の体調が悪く「休みたい」旨の連絡があったそうである。手順に落ち度はないが、「仕事に対する責任感が・・・」と。

#### 6. Webによる連携状況について

- ・メール歴と入力を同画面で閲覧・入力できるように工夫はできないか。メール入力と日報も同様であり、同画面で閲覧・入力可能であれば日報へのコメントやメールもしやすい。
- ・アズビシステムでの操作方法に学生が慣れておらず、評価が未入力になっても気が付かず放置される。XEROXとの併用は効率を考えると避けたい。(「本当はXEROXシステムを使いたいんだけどね～」という声も聞きました。)
- ・実習生、大学教員、施設の指導薬剤師がWebを利用し、報告、連絡、相談などを行った。
- ・実習初日になってもスケジュールがアップされず、予習に支障が出るという事例があった。
- ・東海地区ではシステムを統一してほしい。他地区・特に近畿地区からはゼロックスのシステムで依頼が来るのでゼロックスに統一してほしい

#### 7. 評価実施について

- ・期間中の評価やコメントが1回限りの指導薬剤師やこまめに行う指導薬剤師がいた。
- ・厳しい評価をする指導薬剤師と非常に優しい評価をする指導薬剤師がいた。
- ・形成的評価に理解のない指導薬剤師がいた。
- ・服薬指導の基礎や実践など同一内容のコマ数の多い実習内容において、1回の評価で終了させる指導薬剤師がいた。

- ・薬学会や年度末といった事情もあり、締め切りのタイミングが他の期より早い(?)ため、施設側、学生側の評価実施がスムーズに実施できない。大学の成績評価期限もあって、実習終了間もなく次年度が開始されるため、評価に追われることとなる。

## 【近畿地区】

### 1. 実習実施時のトラブルについて

近畿の半数の大学からは、特にトラブル事例はないとの報告であったが、下記のトラブル事例の報告が、調整機構にあった。

- ・入院等で実習時間が十分確保できず。同一施設での実習時間の確保できない学生を他施設に振り替えて実習延長をしなければならないケースがあった。SBOs すべてを実施した等の理由から、一部不足実習日の実習費の大学への返却がされなかった事例があった。
- ・実習開始直前に骨折入院のため、施設との協議により 1/7~の実習開始を延期して 2/25~5/17 で実習を実施した。(実習時期変更の事例は、近畿地区で 4 例あり)
- ・実習開始前の学生の事前訪問の連絡が遅くなり、実習中止になりかけたが、実習施設との話し合いの結果、予定通り実習を開始した。実習については何の問題もなく順調に実施し、最後まで無事に終了することができた。
- ・実習開始前の打合せ時に学生の態度に問題があり実習受入を拒否されたため、大学で学生を再指導し態度の改善が見られた後、実習開始日と施設を変更して実習を実施した。
- ・偽研修会と思われるダイレクトメールが実習中の学生の自宅に送られてきた。学生に被害はなかったが、近畿地区調整機構に報告した。近畿地区調整機構から各大学に注意喚起の連絡がなされ、その後は起こっていない。
- ・学内の実習報告会の発表内容について、学生が指導薬剤師の確認・校閲なく大学に提出した事例があった。受入施設の薬剤師からクレームの連絡があり、このことが判明した。学生本人の姿勢・態度に問題があると共に、大学との連携のあり方にも反省すべき内容が含まれており、25年度実習については改善を図っている。(2大学で同様の報告があった)
- ・学生が薬品取り揃えをしている隣で抗がん剤の調整をしていた薬剤師が破損事故をおこした。すぐに学生を退避させて、中和、清拭、安全キャビネットの終日運転の対応をしたので、特に問題ないと考えている。」との報告があった。

### 2. 大学と施設との連携について

- ・訪問指導、実務実習記録により、良好な連携が保たれた。
- ・全員、附属病院薬剤部での実習であり、薬剤部長の責任の下、病院実習担当教員である本研究科・助教が主に指導にあたった。研究科の病院実習担当教員は、随時薬剤部長と当該助教と連絡をとり、円滑な実習の実施に努めた。
- ・施設訪問や本学独自の Web による実務実習記録の確認などを通して十分に連携が取れており、特に問題ありませんでした。

- ・実務実習期間中、担当教員による訪問を基本3回実施し、実習の進捗状況などについて指導薬剤師と面談を行い円滑な実習が実施できた。
- ・兵庫県薬剤師会長期実務実習生集合研修会が開催され、薬局実務実習の中で実施困難なSB0s対策の一つとして、薬局製剤などに関する集合研修を行った。

### 3. 実習に関する学生の意見

- ・薬剤師不在となることがあるとの報告が学生からあった。
- ・レジ打ちを嫌う学生がいた。
- ・実習施設以外に研修に行く際の交通費負担に関して、特に遠方で高額になった事例で、実習施設側に負担してほしいという意見があった。
- ・取扱注意の医薬品（素手で触らないように注意する等）については事前に教えておいて欲しい。

### 4. 実習に関する病院側の意見

- ・実務実習記録が使いにくいとの意見があった。期間中の就職活動については数件あったが、特に指導を必要とするような事例はなかったとのことであった。
- ・学生の態度についての指摘があったが、指導薬剤師および大学教員の指導により改善された。
- ・学生を受け入れる側の立場として、実習に影響するようなことに関してわかることは事前に教えていただきたい。(今回の実習生にペニシリンアレルギーの学生がおり、実習が始まり、本人が言うまでその情報がわからなかった。学生は急遽、皮膚科の協力のもと、薬剤のアレルギーテストを行い、実習には支障がない旨がわかった。)

### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・就活等の時期を考慮して実習時期を考えてもらいたい。

### 6. Webによる連携状況について

- ・主に、病院実習の担当助教がWebによる指導にあたった。特に支障はなかったが、Webのほかに、大学独自の指導方法を取り入れて指導を行ったとの報告があった。
- ・学生一人ずつにノート型パソコンを貸与しており、本学独自のWebによる実務実習記録を通して連携を図っています。
- ・稼働も2年目であり、Webによる実習記録を活用することで、円滑な実務実習が実施できたと考えられる。しかし、時系列で成長過程を示す意味においては、指導薬剤師の評価は常に学生に開示されている状態が望ましいと思われる。
- ・実習施設側、大学教員側ともに操作法に習熟してきており、大きな問題は見られなかった。
- ・「一部の担当教員が、十分活用していないのでは？」との指摘が調整機構に寄せられた。
- ・Webシステムの改善が毎年行われているが、さらなる改善の要望があった。
- ・次年度Webシステムソフトの入れ替えテスト作業のため、実習終了2週間前の休日にシステムを一時停止したため、数件の抗議が寄せられた。

## 7. 評価実施について

- ・評価は、病院実習の責任者である副薬剤部長及び病院実習担当の助教が評価を行い、成績入力を行った。特に問題はなかった。
- ・実務実習評価連絡会を実施し、外部評価者による評価を実施した。特に問題はなかったが、薬局実務実習で1名病休により、来年度の実施となった。それ以外の学生については、病院・薬局実務実習の単位が認定された。尚、学生1名が就職試験で評価連絡会を欠席したため、別日程で口頭報告による評価を実施して単位認定した。

### 【中国・四国地区】

#### 1. 実習実施時のトラブルについて

- ・薬局実務実習で、学生がフィブラスプレーを破損した事例があった。指導薬剤師からは弁償の必要はないとのことであったが、大学として学生保険で賠償した。
- ・実習開始早期にインフルエンザ感染を発症し、実習を5日間中断した。(2件)
- ・実習初期に腹痛を覚え、早退して医療機関を受診した。尿路結石と診断され鎮痛薬の服用しながら実習に復帰したが、定期的な通院のため半日の実習となる場合が数日あった。
- ・指導薬剤師より、当該学生が糖尿病教室にて居眠りをしており、看護師より指導に関する注意を受けた旨の連絡を受けた。
- ・事務職員の指示に従わないなどの理由で、薬局内での対人関係が悪化し、当該学生もそれに対して反抗的な態度を示したため、実習後期に指導薬剤師より、実習を中止して帰宅するように命じられた。
- ・結婚している女学生が、第3期病院での実務実習の予定であった。しかし、事前に妊娠しているとの申し出があり、実習が困難と考えられたのでH25年度の第1期にて実務実習を行うこととなった。
- ・病院で実習中の学生から、指導薬剤師によるパワハラにより精神的に耐えられないとの申し出があった。その事を薬剤科長に伝え、指導薬剤師および学生から聞き取り調査を行った結果、他の指導薬剤師のもとで無事に実習を終了した。
- ・交通事故1件。アパートへ帰宅後、車の運転中に追突事故にあった。けがはなかったが、翌日の実習中に、整形外科を受診したため1コマ分実習を欠席した。
- ・実習中の居眠り1件。外来患者のインフォームドコンセント取得に学生が同伴していたが、患者を待つ間に外来待合室のソファで居眠りがあった。指導者は体調不良と判断し帰宅を命じた。後日、担当教員から学生へ実習態度について指導を行った。

#### 2. 大学と施設との連携について

- ・実習前に原則として担当教員が事前訪問し、薬局・病院の指導薬剤師と実務実習内容・指導体制などについて意見交換をした。

- ・また、実習期間中は原則2回、施設を訪問し、指導薬剤師および学生と個別に面談し、問題点の抽出や対応策について連携をとった。なお、施設で学生の実習報告会を開催する場合は、可能な限り担当教員も出席した。
- ・岡山大学薬学部は、岡山大学病院薬剤部と連携をとり、定期的に「岡山大学病院薬剤部、病院実習受け入れに関するワーキンググループ」に、教授2名、准教授1名が参加している。また、病院実務実習中に、適宜、臨床系教員が病院を訪問し、学生の指導・相談を行っている。
- ・薬学部内に「薬学実務実習実行委員会」を設置して、実務家教員を中心に大学と病院施設との連携を図った。第3期の実務実習参加学生の人数が24人と少なかったが、実務家教員5人と基礎系教員10人が2名1組で1つの施設を担当した。事前訪問を両者が行い、2回目を訪問指導基礎教員が、3回目を実務家教員が訪問し実習生、認定指導薬剤師と面談しながら実習進捗状況や日誌などを確認することによって、実務実習の情報を得て指導・助言や意見交換を行った。大学への情報の連絡先は訪問指導基礎教員に一元化し、問題が発生した場合にはアドバイザーと実務家教員を加えて施設との交渉に当たった。今回のトラブル事例では、この連携がスムーズに実施された結果、指導薬剤師を変えることで、学生の実務実習を無事に終了させることが出来た。第3期実務実習終了後に学生のSGDを行ったが、指導薬剤師にも参加するように呼びかけた。また、SGD終了後の19:00より、第1期～3期に実習を行った病院・薬局の施設の責任者及び指導薬剤師、さらに大学教員とで実務実習終了後の連絡会を開催し、実務実習の諸問題に関して意見交換を行った。

### 3. 実習に関する学生の意見

- ・終了後のアンケート調査により、多くの学生が積極的に実務実習を体験できたとのことである。特に、調剤、注射、院内製剤、医薬品情報、薬剤管理指導業務、チーム医療を通じて、服薬指導や薬学的管理を修得できたとの意見が多かった。なお、セルフメディケーション、OTC管理、薬・薬連携などの実習修得度も上がり、充実した実務実習であったと思われる。
- ・学生同士で情報を交換している様子であり、各施設によって実習の負荷(指導薬剤師の熱意、実習内容の差等)が異なっている。
- ・薬剤師が少ないため、計数調剤に関するものが多かった。
- ・実習施設が忙しく、学生間でのロールプレイ、自己学習が多かった。
- ・第3期の実務実習は、第1期実務実習及び第2期実務実習において薬局での実務実習を経験した学生であり、計数調剤など重複する項目が比較的容易に取り組めたとのことであった。しかし、指導薬剤師の指導方法等が異なっており、戸惑いを覚えた学生もいた。また、講義の方が実務よりも多かったといった意見がある一方、現場の薬剤師に指導していただいた事により大学の講義で学習した内容の理解が深まったといった報告があった。忙しい業務にもかかわらず、親切に指導していただいた薬剤師の仕事にやりがいを感じたとの意見もあった。

- ・5年次の就職活動は原則、禁止しているが、1期2期で実習を終了した学生は就職活動を行っているようである。そのため、3期の実習生から不平等感の訴えがあった。

#### 4. 実習に関する病院側の意見

- ・学生の学ぶ姿勢、挨拶、身だしなみがよい。調剤・注射などの基本的実習、患者対応や薬学的管理、病棟実習においても積極的であった。
- ・糖尿病教室といった患者および他職種の前で居眠りなど、問題行動を起こすことは、当該薬剤部の信用を著しく損なうことなので、学校としても事前に十分な指導を行って欲しい。
- ・実習費用が施設間で異なっているのみならず、大学によっても異なっているとの意見があり整合性が必要ではないか。
- ・指導薬剤師のみならず、薬剤部の他の薬剤師や業務の負担が多くなる。
- ・学生の実習に対する意欲や態度に差がある。
- ・学生に指導するために薬剤師の学習意欲が上がった。
- ・実習内容の質が、他の施設と同じか不安である。
- ・大学間で評価方法が異なっており、負担が大きい。統一してもらいたい。

#### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・学生の学ぶ姿勢、挨拶、身だしなみもよく、積極的に実習を行っていた。
- ・学習態度や精神的なものを含めて、問題が予測される学生については事前に情報をいただきたい。

#### 6. Webによる連携状況について

- ・Ⅲ期では、Webを用いた連携体制は実施しなかった。
- ・電子ポートフォリオを活用して、病院実習生の実習内容や進捗状況を、薬学部教員が把握できる。
- ・本学は、紙媒体への手書きが教育効果の観点から必須であると考えていますので、Webは使用していません。
- ・中四国地区内でのWeb導入対策を進めていただきたい。

#### 7. 評価実施について

- ・日々の評価は、学生の自己評価および指導薬剤師の形成的評価が基本である。
- ・総括的評価は、指導薬剤師による意思決定(20%)と日々の実習態度・実習日誌及び学生自己評価を勘案し指導薬剤師の意思を反映した担当教員による評価(40%)、そして課題レポート、学内研修会、実務実習報告会等の学生の実習成果について実務実習委員会による評価(40%)の合計で「優・良・可・不可」で判定した。
- ・Ⅲ期の実務実習では「不可」に該当する学生はいなかった。
- ・病院実習では、各部署の担当薬剤師へ評価表を配布し評価を行って頂き、また、病院実務実習の手引きを用いて、自己評価を行ってもらっている。さらに、電子ポートフォリオの内容を成績評価に反映させている。



- ・指導薬剤師による評価は SBO 毎（小項目）の到達度を 3 段階で評価（a, b, c）し、さらに各サブユニット単位（中項目）を 5 段階評価（5、4、3、2、1）したものを平均して最終評価（大学の評価判定基準に基づいて）とした。各実施施設、指導薬剤師間の評価を均一化するために大学独自の評価判定基準を作成し各指導薬剤師に説明・周知した。具体的な作業の流れは、薬学実務実習評価委員会において上記の資料から単位認定評価案を作成し、薬学実務実習実行委員会を経て薬学部教授総会へ上程され決定される。
- ・紙媒体で毎週、SBO 評価を実施している。

## 【九州・山口地区】

### 1. 実習実施時のトラブルについて

- ・本年度 5 月に開催した第 1 回地区調整機構会議の席で、当地区「トラブル防止委員会」からは、特にⅢ期の実習中に発生したトラブルについて、取り上げるべき問題はなかったと報告を受けている。

### 2. 大学と施設との連携について

- ・大学側も受け入れ施設側も 6 年制度実務実習実施に習熟してきたためか、特に問題として提起されるケースはなかった。「ふるさと実習」においても、変更手続き等も大学 - 施設間で話し合いの上問題なく行われている。

### 3. 実習に関する学生の意見

- ・臨床現場を体験できたことに対する喜びを報告する例が多いと聞いている。

### 4. 実習に関する病院側の意見

- ・薬系大学が位置しない県では、「ふるさと実習」の受け入れ希望が多い。

### 5. 実習に関する薬局側の意見

- ・薬局実習を継続して受け入れてきた薬局に受入辞退のケースが増えてきている。実習施設確保について検討すべきではないか。

### 6. Web による連携状況について

- ・当地区では、統一した Web システムの利用は行われていない。大学独自で開発したシステムを利用している大学がほとんどである。連絡手段の大半はインターネット・メールや電話によるものであり、実習評価についても紙媒体で行っている大学も存在する。ちなみに、全国的に利用されている Web システムを利用している大学が 1 校、独自のシステムが 4 校、Web システムを利用していない大学が 3 校である。
- ・Web で対応している実習施設側からは、便利ではあるがシステムの違いによって操作手順が異なることは、面倒であり誤りが生じやすく避けてほしいとの要望がある。とくに「ふるさと実習」で学生を受け入れた施設から要望が強い。

## 7. 評価実施について

- ・当地区では、実習評価表等を統一しており、特に問題は生じていない。しかし、「ふるさと実習」として他地区から受入れた場合に大学により評価表等様式が異なるので、全国的統一を望む声がある。
- ・当地区での「ふるさと実習」受け入れの際に、成績評価は九州・山口地区のフォーマットに従って字彙頂くことを受け入れ条件として、他地区調整機構にお願いしているが必ずしも周知されていないように思われる。